

砲術教育實施計畫

(主力艦ニツキ計畫セルモノ)

計 画 要 領

一 立案参照要件

(一) 艦、現状(現在、役務昨年、役務艦体兵器ノ現状兵員ノ移動等)ニ注意スル
ヲト

(二) 年度ノ行動作業ハ綿密ニ調査シテ之ニ適應スル如ク計画ヲ立ツルコト

(三) 教育ハ易ヨリ難ニ簡ヨリ繁ニ入ルヲ順序トスト雖一面ニ於テ明日ノ戦闘ニ
即應スルノ必要條件アルヲ考テ考慮スルコト

(四) 計画ハ簡明ニシテ實際ニ適シ貴施者ニ準繩ヲ示スニ於テ遺漏ナキヲ期
スルコト也カ爲出来得ル限り具体的ニ記述スルコト

二 立案様式

本計画ハ一定ノ様式アルニアラス要ハ各人其ノ信スル最良ノ順序様式ニ記
述スレハ足レリト雖今左ニ一般ニ本計画ノ骨子トシテ掲ケヘキ要目ヲ列舉
シ各セニ所見ヲ附記シテ研究ニ便ス

(一) 要旨(方針)

徒ラニ形式ニ流レ又ハ論文的ニ記述スルヲ避ケ簡明ニ採ラントスル方針達ス
キ目的ヲ具體的ニ示スヲ要ス

(二) 教育ノ分擔

砲術長副砲術長分隊長發令所長測的長次室將校等ノ教育訓練對

スル擔任事項ノ大本ハ艦船令艦船職員服務規程教育規則等ニ規定
サレ下ルニ茲ニハ具體的ニ必要ナル分擔事項ヲ特定シ各責務ヲ明カニシテ
教育訓練ノ實施ニ便スルヲ可トス

(三) 教育訓練實施要領

教育訓練ノ統一進歩ヲ計ル爲メ項目ヲ分テ訓練上ノ重ナル準繩並布
望事項ヲ詳記ス

(例)

配置教育

一般關係事項

測的・法・主用打方・裝填秒時・費消時・斉射間隔・給彈藥速度・動搖度及
橫動周期方位盤照準ト直接照準トノ訓練割合

射撃幹部員及射撃幹部附

幹部員ノ訓練(抗上射撃專員施等)

方位盤員ノ照準發射訓練要領 通信裝置使用區分

八砲員

照準發射訓練要領 射・旋・豫射・豫旋・訓練割合砲員訓練要領

二彈藥員訓練要領

木測的部員訓練要領

（照射部員訓練要領）
卜電路部員訓練要領

補習教育

機銃小銃拳銃射撃教育、銃隊教練、陸戰要務、其他

綜合教育

砲戰教練 戰技作業

(四) 記録

艦、行動作業ニ適應スルカ如ク砲術科週課表ノ提示教育記録ノ調製

等必要ナル諸記録ニ関スル要件ヲ定ム

(五) 教育訓練實施豫定概要

艦隊、行動作業等ニ鑑ミ年度ヲ若干ノ小期ニ区分シ各期間於テ達スヘキ

目的ヲ定メ之レニ適應スルカ如ク諸教育訓練事項ヲ按配スルヲ要ス通覽ニ

便ナラシムル爲表ヲ作製スルヲ可トス

備考 關係條文

(軍隊教育規則第五條)

所屬長官ハ教育年度、始メ於テ教育方針ヲ定メ該教育年度ヲ若干ノ教

育期ニ分テ教育ニ関スル麾下基本部ノ主要行動作業ヲ豫定シテ之ヲ令示ス

(軍隊教育規則第六條)

基本長八教育年度、始メニ於テ前條ノ令示ニ基キ一艦ノ教育計畫ヲ定メ砲術長八艦長ノ方針ニ從ヒ砲術教育計畫ヲ立案スルモノトス

(例)

昭和 年 軍艦某砲術教育計画

(一) 教育方針

砲術教育最終ノ目的ハ安實施ノ最善ヲ畫定シ以テ各員ヲ訓育シテ精神上技術上共ニ精練ノ域ニ達セシメ本艦ノ砲煩威力ヲ最大ニ發揮シ以テ戦闘ニ暨ニテハ戦勝ノ榮冠ヲ贏得シ常時ニ於テハ戰技優秀ノ成績ヲ擧グルニ在リ而シテセカ目的ヲ貫徹セシムニ上下一致和衷協同ニテ徹底的ノ教育訓練ヲ實施シ各員ノ技倆ヲ極度ニ向上發展セシムル共ニ各部ノ連繫操作ヲシテ円熟精練ノ域ニ達セシムルヲ要ス百發百中ノ砲一門ハ克ク百發百中ノ砲百門ニ拮抗シ得ルヲ思ヒ各員ノ熱誠ナル奮勵努力ヲ依リ教育ノ円熟ヲ期シ以テ術力ノ増進ト共ニ内容充實ヲ達成セシムルヲ期ス

今左ニ本年年度本艦教育安實施計画ニ基キ砲術教育方針並達スヘキ標準ヲ示ス下左ノ如シ

一 本教育年度ヲ左記四期ニ大別シ順次教育ノ歩ヲ進メテ大成ヲ期スルト共ニ各期ヲ通シ確乎タル軍人精神ト嚴肅ナル軍紀ノ涵養トヲ圖リ以テ明日ノ戦闘ニ即應シ得ル砲戰能力ノ養成ニ努メントス

ニ 第一期(自二月至五月)

専ラ人員ノ補充特ニ適材適所主義ヲ實現シ砲煩兵器ノ修理検査並

新設改造器具ノ完成ヲ期スルト共ニ各幹部ハ教育上ノ計畫實施細目ヲ定メ新編入新配置ノ下士官兵ニ對シ專ラ基礎的教育ヲ施シ各自ノ擔任業務ヲ會得セシム

此ノ期間ニ機銃小銃拳銃射撃ヲ完了ス

三第三期(至五月)

配置教育ヲ按排實施シ漸次綜合教育ニ及ヒ其一般ヲ會得セシム

四月上旬第一回教練射撃迄ニ一通リノ戰鬪作業ニ支障ナカラシムヲ要ス尚此期間於テ射法ノ適用兵器器具ノ實驗要具ノ試驗ヲナシ研究調査ノ上採否ヲ決定ス

五月補充交代ニ極度ニ人員ノ交代ヲ避ケ尙兵器要具ノ整備ニ努メ第三期ニ於ケル準備ヲ完了ス

四第三期(至八月)

綜合教育ニ重兵ヲ置キ時々配置分解教育ヲ按排實施シ戰鬪作業ノ演練ニ努メ教練射撃ニ於テ之ヲ試練シ砲戰能力ヲ極度ニ向上發揮セシム

ヲ期ス

五第四期(至九月)

ニ在リテハ教育ヲ中絶セサル如ク概テ前期ニ準シテ諸教育ヲ反覆シ

各種演習ニ於テ益ヲ熟練ニ達セシムルト同時ニ各種ノ應急處置法

三 綜合教育於上特別分擔

測的長 (照射長)	測的部員 照射部員 電路部員	測的機關調整整頓測的教練 測距檢定 照射機關調整整頓照射教練 照射檢定 幹部附錄技電路員競技 机上射擊
副砲長	水雷員機關員補充	軍隊教育學科 艦止補修教育
陸戰隊指揮官	陸戰隊員	陸戰隊教練 陸戰要務機銃系統拳銃射擊教育

教育分擔者

教育担任事項

第一分隊長(免任總會長)

艦砲操法
照射
砲機故障調查

第三分隊長

彈藥大工
及
給糧操法

第五分隊長

副砲操法
照射
發射
砲機故障調查

高角砲分隊長

高角砲操法
照射
發射
砲機故障調查

備考

(一) 發令所長、測的長、幹部附電路部員教育及机上射擊計畫指導等因之

全ナル協定ヲ遂クルヲ要ス

(二) 次室士官准士官ハ各其分擔ニ從ヒ所屬担任者ノ教育業務ヲ補任ス又ハ令ヲ受

ケ其ノ一部ヲ分担スルモノトス

(三) 教育訓練實施豫定

昭和四年度第一艦隊行勳作業予定表ニ基キ教育訓練ヲ左ノ如ク予定ス

育	教 置		配	時期						
	員	砲								
育	(一) 彈藥及關係諸 裝置整備 (二) 彈藥火高取扱法 (三) 庫内諸裝置構 造取扱法	(一) 砲機構造取扱調整 (二) 方位盤射擊裝置 構造調整取扱法 (三) 標式教範說明 (四) 單砲標法	(一) 砲機構造取扱調整 (二) 方位盤射擊裝置 構造調整取扱法 (三) 標式教範說明 (四) 單砲標法	第一期(十二、一、二)						
				(一) 彈藥庫標法 (二) 彈藥全品取扱法 (三) 庫内諸裝置備法 (四) 彈藥供給標法 (五) 給彈藥檢定	(一) 艦砲教練 (二) 照準發射教練 (三) 裝填教練 (四) 照尺及調教練 (五) 砲戰教練 (六) 砲員檢定 (七) 方位盤標法 (八) 敵練射擊	(一) 艦砲教練 (二) 照準發射教練 (三) 裝填教練 (四) 照尺及調教練 (五) 砲戰教練 (六) 砲員檢定 (七) 方位盤標法 (八) 敵練射擊	第二期(三、四、五)			
							(一) 彈藥供給標法 (應急處置法) (二) 給彈藥檢定 (三) 砲戰教練 (四) 敵練射擊	(一) 方位盤標法 (二) 照準發射教練 (三) 裝填教練 (四) 艦砲教練 (應急處置法)	(一) 方位盤標法 (二) 照準發射教練 (三) 裝填教練 (四) 艦砲教練 (應急處置法)	第三期(六、七、八)
										(一) 給彈藥檢定

同 右

署	部	
測 的 部	幹 部 員	
(一)測的要具整頓 (二)測距儀調整 (三)測的通信器具 整備 (四)操式教範說明	(一)方位盤裝置指揮 要具通信裝置 整備及取扱法 (二)通信傳令教練 (三)操式教範說明	(四)彈藥產取締法 (五)操式教範說明
(一)測的教練 (二)測距教練 (三)通信傳令教練 (四)測距檢定 (五)幹部附競技 (六)電路員競技 (七)砲戰教練	(一)方位盤調整法 (二)指揮要具調整法 (三)通信傳令教練 (四)机上射擊 (五)砲戰教練 (六)指揮閣下神 助業務 (七)幹部附競技 (八)教練射擊	(六)砲戰教練 (七)教練射擊
(一)測的教練 (應急處置法) (二)測距教練 (三)通信傳令教練 (四)測距檢定 (五)幹部附競技 (六)電路員競技	(一)射擊指揮傳裝 置應急處置法 (二)通信傳令教練 (三)机上射擊 (四)砲戰教練 (五)幹部附競技 (六)教練射擊 戰鬥射擊 研究射擊	戰鬥射擊 研究射擊
(一)測距檢定 (二)幹部附競技 同 右	(一)幹部附競技 同 右	

		練				教							
		陸戰隊員				部員		射路		照電		員	
(一) 銃隊教練	(五) 陸戰要務 (四) 機銃拳銃射擊 (三) 拳銃取扱法 (二) 機銃構造取扱法 (一) 銃隊教練			(四) 操式教範說明 檢查	(三) 主要電路狀態 檢查	(二) 同右調整取扱	(一) 探照燈並管制卷 整備						
(一) 銃隊教練	同 銃隊教練機銃隊教練 時機ヲ得次第力ニ陸上ニ於テ 施行ス	(八) 教練射擊	(七) 電氣器具電路 檢查調整	(六) 電路員競技	(五) 照射檢定	(四) 夜戰教練	(三) 通信傳令教練	(二) 照射管制法	(一) 照射教練			(八) 机上射擊	
(一) 銃隊教練	同 對航空機機銃射擊 八第四期於テ施行ス	研究射擊	戰闘射擊 研究射擊	(五) 電氣器具電路 檢查調整	(四) 照射教練 應急處置法	(三) 電路員競技	(二) 照射檢定	(一) 夜戰教練				(七) 机上射擊	
	上				同			(一) 電路員競技					

考 備	神 習 教 育	
<p>(一) 各期欄以科目ハ其期間ニ終了スヘキヲ示スモノニアラス主トシテ斯ノ如キ科目ヲ課シ各系統ニ從ヒ連綿繼續スヘキヲ示ス又欄内ノ科目番號ハ必スシテ順席ヲ示スモノニアラス</p> <p>(二) 教練ニ小銃空包ヲ使用セントスル場合ハ其都度砲術長ニ通報スヘシ</p> <p>(三) 砲術長ハ教育訓練成績ト艦隊行動作業ノ予定ニ鑑ミ要スルハ翌月於</p>	<p>機 持 員 務 員 員</p>	<p>水 兵 員</p>
	<p>(一) 無銃教練 (二) 拳銃教練</p>	<p>(二) 彈藥庫ニ関スル事項</p>
	<p>(一) 無銃教練 (二) 銃隊教練 (三) 拳銃教練自取扱法 (四) 小銃構造取扱法</p>	<p>(二) 彈藥庫ニ関スル事項 (三) 彈藥空包ニ関スル事項 (四) 陸戰要務 (五) 小銃射撃術同取扱法 (六) 砲々架及附属具構造取扱概要</p>
<p>同</p> <p>(一) 別科時間其他適當ニ時機ヲ撰ヒ行フ (二) 銃隊及無銃教練ハ力ヲ陸上ニ於テ行フ</p>	<p>(一) 各砲台長ハ砲員補欠員トシテ彈藥員ニ艦砲操法ヲ教授スベシ (二) 別科時間其他適當ニ時機ヲ撰ヒ行フ (三) 銃隊教練ハ時機ヲ得次第カメテ陸上ニ於テ行フ</p>	

ケル主要教育訓練作業ヲ予ホシ尚毎週金曜日迄ニ艦ノ行動作業ニ適應スル如ク初至週中ノ週課ヲ定表ヲ作製シ関係者一般ニ提示ス

(四)教育主任者ハ予定ニ從ヒ腹案ヲ定メ作業準備ヲ完成シ訓練時間ヲ浪費セザル如ク努ムルヲ要ス

(五)教育ハ實物教育ヲ主義トシ時機ヲ得次第他艦船ノ射撃実地見學ヲ勵行ス

(四) 教育訓練實施ノ要領

各部ノ連繫ヲ保タシムル爲メ教育實施間ニ其ノ要領ヲ概示スルト左ノ如シ

一 一般ノ按配

(一) 本艦作業豫定表ニ依リ前表ニ基キ教育訓練ヲ實施ス

(二) 艦内衛兵及役員ノ関係上分隊總員ノ配置教育ヲ施行シ能ハサル分隊ハ便宜

各個教育又ハ補習教育等ヲ施行スルモノトス

(三) 各個ノ技術相當ニ進捗發達シタル曉ニ於テハ機宜極要配置者ノミヲ以テスル配

置教育ヲ施行シ特技ノ向上ヲ計ルヲ必要ナリ

(四) 雨天其他ノ事故ニヨリ配置教育ヲ施行シ能ハサルトキハ成ル可ク補修教育ヲ勵

行スルモノトス

二 配置教育

(一) 幹部員教育其ノ一(士官)

各射撃指揮官ハ射法ヲ研究シセニ依テ本艦ニ最モ適切ナル射撃指揮法ヲ決定シ各級幹部カ全ク其ノ意圖ヲ了解シ各種ノ情況ニ即應之恰モ志同体ナリ得ルカ如ク演練スルヲ要ス

(イ) 射法ノ研究

各指揮官ハ採ラントスル射法ヲ決定セハ砲術長ニ提示ス砲術長ハ要スル研究會ヲ開キ更ニ机上射撃ヲ存リセテ演練ス

(ロ) 机上射撃教練

第一期ハ主トシテ發令所長(號令官)ノ研究準備期間トシ今般教育ヲ行フ此間ニ机上射撃演習内規ヲ定ム

第二期及第三期ハ應用教練ヲ施行ス而シテ其ノ実施ヲ火全土曜トシ要員施方
法ハ別ニ定ム又第二期在リテハ砲戰教練ト併ヒ施行スルヲ例トシ其ノ要員施日ハ作業豫定表ニ秘ル

(ハ) 過去ニ於ケル年度射撃ノ徑過故障等ニ付キ教示並研究ヲ行フ各射撃指揮官並ニ發令所長(號令官)ハ特ニ詳細ニ之等ヲ調査^(自記)修養並部下ノ教育資料トナスヘシ艦本砲秘砲普集及砲術年報中參考トナルナルヘキモノヲ搜集シ更ニ砲術具彈藥火工品ト指揮要具通信機關トニ區別編纂シ關係者ニ配布スル
フトトス

(二) 研究會

砲術長主宰ノ下ニ臨時關係職員ヲ會合シ砲術科諸作業ニ関スル事前

(ホ) 艦砲射撃見學

事後ノ研究並對策等ヲ決定ス

他艦ノ艦砲射撃ニ際シテハ關係職員ヲシテセカ見學ヲ勵行セシメ射撃指揮法操砲等ニ関シ自ラ啓發スルニ努カメシム

(ニ) 幹部員教育其ノ二(下士官兵)

極力通信傳令教練及砲戰教練ヲ實施シ幹部附ヲシテ指揮要具通信機關ノ構造及取扱ニ慣熟セシメセカ破損故障等ニ對スル應急処置法ヲ研究練習セシム而シテ幹部員ハ適任者ノ人選ヲ肝要トシ艦砲戰能力増進ヲ旨トシテ予メ適材ヲ適所ニ配スルヲ要ス

(イ) 射撃指揮通信系統並要具構造及取扱法

第一期ニ於テ充分精通セシムルモトス但構造ノ取扱必要ナル部ニ重キヲ置クヘシ又通信系統ハ各系統毎ニ錯綜ノ恐レアル箇所又開放ヲ要スル部分ニツキ充分了解セシムヘシ

(ロ) 通信裝置並傳令法

第一期ニ於テ精通會得セシメ且傳令法關シ注意スヘキ要點ヲ教示シテ了解セシムルモトス

(ハ) 通信傳令教練

先ツ號令及屢起リ易キ命令ノ概意ヲ會得セシメ且ツソノ發唱ニ熟セシ
 ルト共ニ確實迅速ヲ要求スルモノトス實施ニ於テハ發受信簿ヲ調製シ
 教練終了後發信簿ニ比較シ受信正否ヲ調査シ其ノ誤ノ原因ハ人員器
 具ノ何レニテリヤヲ確メ其ノ都度セテ照校矯正スルモノトス本教練ハ配置教育ニ
 於テ實施スルト同時ニ毎日武器手ノ際必ス施行シテ通信器ハ状態ヲ檢シ置ク
 モノトス

又通信器故障ニ對スル処置及應急通信法強風中高速航行中及夜間ノ教
 練ヲ充分ニ實施スルモノトス尚故障誤謬ヨリ生スル結果ノ重大ナルヲ過去
 年度諸射撃ノ實例等付キ教示スルヲ要ス

(二) 方位盤員教育

方位盤員訓練ノ目的ハ円滑ナル操法ト精密ナル照準發射トニ依リテ砲側
 ト密接ナル意志ノ連繫ヲ保チ全砲台ヲ一丸トナシ以テ集團威力ノ發揚
 ヲ期スルニ在リ而シテ方位盤照準發射法ハ最モ考究練習ヲ要ス所ニシテ
 年度 初頭ヨリ周密ナル計畫ノ下ニ射手旋回手ノ照準發射訓練
 ヲ勵行シ併セテセニ伴フ砲側射手旋回手ノ方位盤照準法ヲ促進シ両々相俟
 ツテ教育ノ目的ヲ達成スルヲ緊要ナリ

要スルニ射撃指揮幹部附ノ職業ハ恰モ一神經系統作用ノ如キ密接ナル連繫
 状態ニ立チ至ルヲ主眼トス而シテ此ノ目的ヲ達スルニ射撃指揮官始メ閣僚員

一向カ毎日戦闘配置ニ就キ通信教練ノ熱心及復實施ヲ壓ハサルト最モ緊要ナリ

(二) 砲員教育

砲員訓練目的ハ時ト場合トヲ問ハス射撃指揮官ノ意圖ニ合シテ克ク砲火威カヲ發揮シ得ル在リ而シテ其ノ教育ハ漸ヲ追ヒ易ヨリ難ニ簡ヨリ繁スリ確固タル基礎ヲ樹立セシムラ要ス而シテ此ノ目的ヲ達スルハ砲員ヲシテ嚴格ナル艦砲操法ニ熟達セシメ併セテ確乎タル射撃軍紀ヲ涵養セシムル在リ故ニ教育開始ノ初期ニ於テハ各機構ニ精通セシムルト同時ニ操法ニ熟達セシメ而シテ後各部ノ綜合教育ヲ實施スルヲ要ス而シテ一回ノ配置教育實施ニ於テ概テ前半ハ操法ニ後半ハ機構ノ取扱及調整ニ從事セシムル可トシ又各部分解教育ヲ施行スル場合ニモ常ニ最初短時間操法ヲ施行シ然ル後例令ハ射手旋回手ハ照準替古掌尺手ハ改調教練其他砲員ハ裝填替古ヲナサシムルカ如クシテ成ル可ク倦厭ノ念ヲ起サシメス快心以テ教練ニ從事セシムルヲ要ス
尚ホ教練ノ始終中總等零細ノ時間ヲ利用シ機宜ノ講評又ハ戰役其他實射ノ經驗ニ基クテ訓話ヲナスハ其効果大ナリ

(1) 射手旋回手

第一期ハ主トシテ各部ノ構造取扱法及調整ヲ實習セシメ併テ操法ヲ演練シ且照準發射法ニ習熟セシムラ要ス而シテ大口徑砲ハ最初点の法ニヨ

リ(通り)直接照準法ニ慣熟セシメ操砲ヲ訓練シ爾後方位盤照準法ノ實施ニ移ルヲ可トス中口徑砲ハ右ニ準スルノ外毎週數回夜間ニ於テ本項ノ教練ヲ施行スルモノトス

縮射彈射撃及点的法ニ見教練ハ砲臺長適宜按配實施シ照準發射鑑査及外臆砲射撃ハ其ノ都度令達シ實施ノ要領ハ別ニ指示ス方位盤照準教練ハ第二期ヨリ砲戰教練中演練ス其ノ實施日ハ艦ノ作業週課表ニ概ル

(四) 掌尺手

第一期ハ照準器ノ構造及取扱法ニ習熟セシメ其ノ後ハ照尺改調教練ヲ固有砲又ハ各分隊毎ニ適宜ノ砲ニ集合シテ訓練シ通信傳令教練ト併セ施行スルヲ例トス而シテ中小口徑砲ニ在リテハ第二期以後毎週約ニ回以上夜間ノ照尺改調教練ヲ施行スルモノトス

(ハ) 其ノ他ノ砲員

第一期ハ主トシテ機構取扱法及故障ニ對スル應急処置法並ニ操法ヲ實施シ且裝填演習ヲ施行スルモノトス而シテ中口徑砲ニ在リテハ第二期ヨリ毎週約ニ回以上夜間裝填演習ヲ施行スルモノトス

(四) 測的員探照燈員教育

第一期ハ主トシテ機構及取扱法並調整法ニ精通熟達セシメ第二期以後

教育シ置クヲ要ス

(七) 陸戦隊員教育

第一期第四期ニ於テ時機ヲ得ル毎ニ陸上ニ於テ諸教練ヲ妥員施セシム其他ハ
部署教練トキ艦内ニ於テ訓練スルヲ度トス

補習教育

(八) 水兵員

主トシテ第一期及第四期ニ於テセテ行フノ外雨天ノ節又ハ各分隊長梅田三丞
キ教育作業ノ進捗ニヨリ適宜施行スルモノトス

(九) 機関員並工作員

全教育期間ヲ通シ他作業ニ差支ナキ限リ施行ス而シテ各期共時機アラハ
陸上教練ヲ施行シ其ノ他ハ通例艦内ニ於テ補料時施行スルモノトス

総合教育

専ラ砲戦教練(水兵員中砲戦關係アルモノ)ニテ行フ戦闘教練ヲ行フ主トシテ
第二期及第三期ニ於テ各分隊ノ配置教育一通ヲ終了セハ毎半日砲戦教練
ヲ行ヒ其ノ訓練ノ度進ムニ從ヒ机上射撃教練ト併セ施行ス其ノ妥員施ハ作業程
定表ニ基キ其ノ都度セテ指示ス

要之艦隊ニ於ケル艦内ノ作業ハ甚ク複雑ニシテ日課モ亦常ニ予定スル事能ハ
サル場合多ク人ト時トヲ節約シテ尚且完全ナル教育訓練ヲ施シ以テ便於ナル

(五)

射撃手並各種檢定競技計畫
 左記各計畫ハ別ニ之ヲ定ム

(一) 教練射撃戰鬪射撃實施ニ関スル計畫並施行細別

(二) 操法給彈藥測距並照射檢定實施ニ関スル計畫

(三) 測的部員幹部附並電路員競技實施ニ関スル計畫

(六) 教育訓練實施ニ関スル注意事項

(一) 教育訓練ノ要ハ精巧ニ非スニテ熟練ニ在リ知ル事ハ目的ニ非スニテ「出来」事カ
 目的ナリ而シテ此「出来」良ク出来「事」ハ熟練ニ非ハ得難シ熟練ハ教育ノ
 懇篤ナルト復習ヲ厭ハサル事ニ依リテノミ得ラレルモノナリ故ニ教育實施
 ニ當リテハ時間ト教科ノ安排配合ニツキ綿密ナル計畫ヲ定メ苟モ習者ヲシテ
 倦怠ノ念ヲ惹起セシメサル如ク指導スルヲ要ス達スヘキ目標ヲ定ムス「行
 キ當リバツタリ」ニ事ヲ處スルハ嚴ニ戒トサル可ラス

(二) 教育訓練ハ嚴肅ナル軍紀ヲ基礎トセサルヘカラス

艦砲操式綱領ハ單ニ艦砲並給彈藥ニツギテノミノ準繩ニ非ス

砲術教育全般ニ對スル綱領ナリト心得ヘシ

而シテ偶々教練ニ熱中シ其成績ノ向上ヲ望ムノ餘リ不知不誠ノ間ニ不規律

一流ノ軍規ノ馳緩ヲ末スフトナキニ非ス各幹部ハ常ニ比真ニ注意スルヲ要ス

(三)綿密周到所謂「水も漏れず」計画ヲ定メ一旦安實施ニ移ラハ萬難ヲ排シテ目標ニ邁進決行スルヲ要ス右顧左眄躊躇逡巡スルハ安實施部隊ノ最モ忌ム所ニシテ成果ノ興否概チ茲ニ胚胎スルヲ銘記スヘシ

特ニ射撃ヲ實施ニ臨ミテハ工夫ヲ疑ラシ判断ヲ纏ムル数秒ノ時間ヲ惜シムヲ常態トス是レ吾人カ巧緻ト遲疑ヲ作ケテ勇断決行ヲ叶フ所以ニシテ百練千磨ヲ要スル理由亦茲ニ在リ各級教育擔任者ハ此射撃ノ實相ヲ部下全般ニ徹底了解セシムルニ努カスヘシ

(四)艦隊ノ作業ハ甚ク複雑ニシテ天候其他突發事故ノタメ豫定作業ヲ遂行シ得サルコト又朝ニ是メテ夕ニ豹変スル等場合多々アルヘキヲ覺悟シ實施當事者ハ何時如何ナル作業ヲ課セラルモ常ニ之ヲ即應シ得ル如ク幾様ニ準備ヲ整ヒ置クヲ要ス

(五)教育訓練始終時其他適當ナル機會ヲ捉ヘ適切ニシテ簡潔ナル訓示講評又ハ注意ヲ與フルコトハ大ナル効果アリ同時ニホイントニ触レサル教員辯冗語ハ却テ有害ナルコトニ留意スルヲ要ス要ハ指揮者親シク現狀ニ臨ミ確實ナル掌握裡ニ活資料ヲ得ルニ在リ抽象的ナル教示ハ却テ何等ノ効果ナシ

(六) 操式教範ヲ嚴守スベシ

教育初期於テハ專ラ確實ヲ主トシ迅速ハ確實ノ基礎上ニ築キキ上ケラ
レタル訓練ノ結晶ナリト心得テヘシ危険防止故障豫防ハ更ナリ術力機力
ノ向上ハ操式教範嚴守ヲ以テ最捷徑トナス操式教範ハ表面ノ字句ニミ
拘泥スルトナク深ク其制定教訓ノ真意ヲ徹シ適切柔軟ナル運用ヲ俟
ツテ初メテ其光彩ヲ發揮スルモノト心得ヘシ

(七) 兵器尊重愛護ニ就テ

操式教範ノ要求スル兵器尊重愛護ノ真意ハ其兵器ノ有スル全能ヲ
何時ニテモ完全ニ最大ニ發揮シ得ル如ク整備シ置クフトニ在リ如何程外
貌ノ美ヲ重シシ金屬ノ光ヲ懼カスニ機能完全セサル兵器ハ死物ニ等シ此要
求ヲ達セシムルニハ毎日武器手入れ際及訓練開始ノ前後ニ於テ各自受持部
機能ヲ順ヲ追ヒ仔細ニ使用矣檢シ苟モ不備ノ矣不安ノ個所ヲ發見
セハ時ヲ移サスセカ原因ヲ探究シ最短ノ日時ニ於テセテ復サ旨ニスルニ在リ漫
然セテ放置シ不備ノ矣ヲ發見スルニ「タイン夕事ナカラシ」ドウニカナルゴウ」或
ハ浅薄ナル手段ニ出シカ必スヤ大ナル故障ノ基トナリ恢復ニ容易ナラサルニ
至ルモノナリ

(八) 電路並電氣通信器具整備ニ就テ

砲術科ニ屬スル電路並電氣通信器具ハ方位盤射撃等装置出現以來軍

々歳々其数ヲ増加シ尔来測的機関ノ充實探照燈ノ保管轉換アリ殆
ント全艦電氣器具ノ三分ノ二以上ヲ占ムルに至レリ是ヲ小數ナル電路員ニミ任
セシカセカ整備ハ到底望ム可ラス特ニ本艦ノ電路ハ故障百出應接ニ遑カ
ラサル現状ニ於テ方ヤ故ニ電路部員以外ノ者ト雖モ各自ノ受持部ニ就キテハ
不斷ニセカ研宄ヲ重ホ調整ヲナシ整備ニ對シ全責任ヲ負フノ覺悟ヲ
要ス方位盤射擊裝置ノ如キ其一部ノ徵細ナル亦表調モ往々ニシテ全裝置
ニ重大ナル故障ヲ誘起スルモノニ於テハ特ニ然リトス

凡ソ電氣裝置ハ構造緻密ニシテ内臓ノ認識困難ナル爲一旦故障ニ際會
セ方セカ發見處置容易ナラサル場合多シ然レトモ名醫ハ外貌ヲ見テ病
源ヲ指摘スト謂フ研究綿密ニシテ常ニ現状ニ親クセハ轉瞬ノ間病根ヲ
鑑定シテ之ニ即應スルヲ得ルノ域ニ到達スルトシ難事ニ非スト信ス

機関科電氣部トノ連絡意志疎通ニ就キテハ往々等閑ニ附セラルル傾
アリノ本正シカラスシテ末全キヲ望ム可ラス且數相互協調ニテ遺憾ナキヲ期
スヘシ

(九) 幹部員測的部員ノ訓練ハ從來往々ニシテ砲員訓練ニ及ハサルノ跡ヲ見ル
前者ハ其受持多種多様ニ亘リ夫々特種ノ理解カト判断カトヲ要スルヲ於
其人選ト訓練トニ就キテハ充分ノ注意ト努力カトヲ要スルモノアリ強風高
速轉飛又ハ夜間等各種ノ狀況下ニ於テ完全ナル通信機関ノ運轉連絡

ヲ計リ又的針的速ヲ轉瞬ノ間ニ測定通報セシト豈一朝一夕ノ業ナラ
 ヤ而カモ此種錯謬タルヤ其影響甚スル所大ニシテ唯一件微小ノ過失モ往々
 ニシテ全射撃ヲ失敗ニ導キタルコト其例多シ一段ノ努力ヲ切望ス艦長ト
 射撃指揮官トノ連絡ニ就キテハ平素教育上注意ヲ用ユルヲ要ス

(四) 夜間射撃ノ成果ハ現状ニ於テハ其大部ハ照射状況ニヨリテ左右セラル而シテ
 照射訓練ハ過去數年間ニ於テ着々進歩ヲ成シ管制法亦曰觀ヲ脱セルノ
 跡ヲ認ム然レトモセラ固有ノ使命ヨリ大觀スルトキハ改善スヘキモノ訓練ヲ要
 スヘキモノ多クアリ此際吾人ハ徒ニ希望理想ヲ説クヲ止メ現有ノ人ト兵
 器トヲ以テ其最善ヲ發揮スルニ努メサル可カラズ

照射状況漸次良好トナルニ反シ射撃ノ效果ノ乏ニ伴ハサル主因ハ次ノ如シ

(一) 射撃ノ散布甚々大ナルコト

(二) 不羈彈多キコト

(三) 照尺ノ誤調多キコト

(四) 彈藥ノ裝填確實ナラサルコト

即夜間操法夜間照準發射法ノ訓練ニ就キ一段工夫努力ヲ要ス

(二) 測的ニ於ケル的針測定ノ難題ハ依然トシテ未解決ナルモ現用ノ器具ハ吾人

ニ練度ノ極致ト微妙ノ觀察トヲ要求シテ已マサルモノアリ大基線測距儀ノ

善用ト優良ナル觀測鏡ノ活用上ニ依リ相當ノ精度ヲ得ヘキモノナルヲ信ス

特ニ這種練度ヲ生命トスルモノニ在リテハ隠レタル異常ノ努力ヲ勉強ト慘憺タル工夫トニヨリ初メテ成功スルモノナルヲ過去ノ歴史ノ証明スル所ナリ願クハ一日モ早ク在来ノ機関ト併進シテ熟達ノ域ニ達シ該問題ニ對スル權威アル解決ヲ與ヘンコトヲ切望ス

(三) 彈火藥庫ノ取締ヲ嚴密ニスヘキコトハ言ヲ俟タサル所ナルモ頻繁ナル教練實施期ニ於テハ不知不識ノ間ニ等閑ニ流レ易シ彈火藥庫取締規程勵行ニ對シテハ各責任者ニ於テ不斷ノ注意ヲ拂フヲ要ス

(三) 本年度戰鬥射撃主要研究項目中本艦ニ關係アル事項ニ關シ砲術長ノ腹案並希望事項ノ大要ヲ記述ス

(四) 本年度本艦ニ於テ新設セントスル事項並改善予定作業ノ大畧並ニ特ニ考案特設ヲ要スヘキモノニツキ要求ノ概畧ヲ記述ス

(七) 記録

一 射撃指揮官及分隊長ハ左記様式第一ニ準シテ教育記録ヲ作製シ毎月頭砲術長ノ査閲ヲ受クヘシ

二 砲術長ハ左記様式第二ニ據リ砲術教育記録ヲ依リ毎月々頭艦長ノ査閲ヲ受クルモノトス

様式第一

所 經 過 見		教育班 科目	術 習 教 育					月	分	成績摘要

所 經 過 見		配 置 教 育 科 目	配 置 教 育					月	分	成績摘要

所 經 過 見 及			作 業 員	部 署 教 練 月 分
			種 別	
			計 實 施	
			累 回 計 教	
			成 績 摘 要	